愛國婦人

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回(五日廿日)發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番◎遞送無料◎振替貯金口座壹壹三八一番

Sept. 5th. 1909.

明治四十二年九月五日發行

定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢◎廣告料一行金六十錢●發行所東京麴町區牛ヶ淵公園内愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫◎編輯者永持德一

本月米國で發表された驚くべき最近の事實

森玄づか

△六百萬人の嬰兒が十年間に死ぬ

過ぎにし五十年間の統計に依つて見ますと、アメリカでは、毎十年ごとに六百萬人の嬰兒が死に、種々と悲しい事情なんぞで三千萬軒と云ふ大多數の家庭がつぶれて終ひ、三千萬人と云ふ恐ろしい數の米國婦人は未だ口もきけず、歩み習ひも出來ぬうちに、最愛の嬰兒を亡したと云ふので、悲しみのあまり病氣になると云ふ情況ださうです。いかに國が大きく、土地が廣く、人が多いアメリカだとは申せ、何と恐ろしく悲慘なことではありませぬか。

△五人に一人は生れぬ先に死んで終ふ

尚ほ詳しく統計に依つて審べて見ますと、生れぬ先に死ぬ嬰兒の數は、五人に一人と云ふ割合、去年の夏紐育市での正確な統計に依ると、誕生した二萬人の嬰兒に對し四千五百人は死亡する割合になつて居るさうであります。

これもアメリカのコーネル大學のウヰルコック教授が調べた結果に依ると、千八百六十年から千九百年まで、同じく五十年間に於て、恰度嬰兒の出來やうと云ふ年配の婦人一千人に就いて、百五十二人即ち一年に三十五人平均に死亡すると云ふことであります。尤もこれは合衆國だけの統計でありますが、この統計率のまゝで百年間つゞくと、婦人の過半數は嬰兒のないものとなつて終ふと云つて、この悲しむべき結果を發表して居ります。

△五十七人中たつた十一人のみ

全然、何うして、このやうに死ぬ嬰兒が多くなつたのか、嬰兒の出來ぬ婦人が殖えたのか。それに就いてこれもアメリカのジョンス・ホプキンス大學の前教授たるオスラー博士は、斯う云つて居ります、これは晩近數百年のうちに酒精中毒だとか、各種傳染病だとかが盛んに入り込むやうになつた結果である。であるから、兩親が大酒家である十家族に就いて最近に調べた結果によると、十家族合せて五十七人の嬰兒が生れたうち、誕生後一週間のうちに、二十五人死に、五人は發育不良、五人は癲癇、十一人はその他の病氣にかゝつて居るとのことで、その病源の主なるものは、酒精の影響から來て居るのであつて、これだけ多數のうち唯つた十一人だけが、僅かに普通の健康情態にあるとのことであります。

米國少女収養所にての就寢前の祈

△フランクリンは十七人目の末子

尚ほまた調べた結果に依ると、極く剛健で堅固な嬰兒は、未だ二十五歳にならぬ母親から多く生れ、また過度多數生んだ嬰兒の母親は、概して健康を損じ、生れた嬰兒も概して充分健康でないと云ふことであります。が、一方では非常に澤山の嬰兒を生んだ母親の健康狀態が、少數の嬰兒を生んだ母よりも、一段と宜いと云ふ異數の例もあるさうです。が、彼のハーバート・スペンサーなぞの說に依つて見ても、一般に體の弱い母親から生れた嬰兒は、依然壯健でないとたしかに云ひ切ることが出來ると思ひます。

で、目下アメリカで一般に認めらるゝ處に依ると、非常に嬰兒澤山であつて、しかも孰れも健全であると云ふこと、十五人も十六人もある子供のうち、末の子供までも壯健であると云ふ例外はあるとのことで、この例外の例として、屢ば、彼の詩人コーリッヂが十三人の兄弟の末子であること、これも文學者のワシントン・アーヴアングが十一人目の末子であること、世界を捲席したナポレオンが八人目の末子であること、能辨家で有名なダニエル・ウエブスターが七人目の末子であること、高名いベンジヤミン・フランクリンが十七人目の末子であると云ふことを、說明さるゝやうになつて居ります。

そりや勿論、今日──殊に米國に在つては、生活の狀態が大層異つて居ります。最近に至るまで二十五年の間は、生活にまだ〳〵餘裕があつた、生活の方法は單純であつた。が、今日では、なか〳〵左樣いふ譯には行かぬ。生活は頗る複雜になつて居る。結果として人々は、いづれも神經質になつて居る。肉體も靈性も疲れ切つて居る。これが、嬰兒の肉體と心に影響を及ぼすこと少なからずと認められて居ります。

△文明の犠牲になる不愍な嬰兒

文明の進歩、世の移り變りのための犠牲となる嬰兒は、何と不愍なものではありませぬか。文明の進歩の犠牲となつて、弱く生れ、不具に生れ、不幸に生れる嬰兒ほど世に可憐なものは無いのであります。不愍！ いかにも不愍至極であります。不愍至極であるから、何かの方法で救ふてやりたい、と云ふのは、誰れしもの人情であります。

ですから、アメリカに於ては、最近二十五年間に、あらゆる大都會に於て、弱い嬰兒、貧しい子供のために、隨意に心置きなく無料で牛乳を飮ませる設備が出來て居ります。尤も、これはアメリカばかりではなく歐羅巴にも出來て居るさうであります。

アメリカで始めて此設備の出來たのは紐育で、最初は夏の間だけ、純良の牛乳を嬰兒に飮ませることにしたのでありました。が、これは唯だ、病院の一部の事業として、夏の間だけ、これに從事したのに止まり、これが完全に組織されたのは博士ヘンリー・コプリツクと云ふ人が改めて牛乳供給所を設備したのが最初ださうであります。これを初めとして、各所にミルク供給所が出來たのださうです。

△不愍な犠牲を助ける大設備

今一つ注意すべき、感謝すべき設備は、この不愍なる、不幸なる犠牲の嬰兒のために第一に紐育市に出來、ついで、他の街巷にも出來るやうになりました。

その設備とは何かと云ふに、かゝる嬰兒、弱い嬰兒を健康に導き、かゝる病ひの諸方にはびこらぬやうな病院のやうな設備であります。即ち學童の健康と云ふことに興味を保て居る醫師や看護婦に依つて組織され、特殊の病院であります。紐育では毎年、六百萬人平均の兒童の健康が檢査され、傳染の惧ある兒童は、他のものから隔離すると云ふことにしてあるのださうです。

信州諏訪湖

で、何時から、斯る檢査をすることになつたかと云ふに、千九百八年の前半年からのことで、紐育學校の學生たるもの十三萬五千人について、健康の檢査を行つたさうです。このうち十萬人と云ふ大多數が治療を要するものであることが判然はしたものの、未だ其の必要が多くの人に認められぬためか、僅かに十分の六を收容して好い許しを兩親から得たに止まつたさうです。

尚ほ、同じ年の後半期に十八萬六千人の兒童に就いて健康狀態をしらべたところ、十四萬人だけ、治療の必要あることが認められ、そのうちの半數だけを收容治療することになつたと云ふことです。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京の改善は婦人の力

法學博士　戸水寛人

△下水道と兒童公園

東京を衛生的都市となして惡疫の流行を防止するに當り、諸姉に密接の關係あるものは下水道の急設の要と、港區到る處に小公園即ち兒童公園を設備することの必要とである。

諸姉の美なる聲音により、日々の炊事洗濯等で汚穢せる惡水を目に見ることを得ざるやうならしむるには、下水道大工事が設備せらるゝことであらふと思ふて居ります。都人士の眼中には、衛生を見逃す程に朧たる觀察に陷ることは無いと思ふて居るのであるが尚且つ諸姉の團體からも、下水道工事を迫るの勇を吝むなきを望むのです。

△水道普及の急切

戰爭の費用に堪ゆる大國民が、黴菌との戰爭費用を吝むことは有り得べからざることゝ信じます。

下水道工事は市區改正中第一に完成すべき問題であります。これは水道工事よりも寧ろ急を要するものである。全國の模範たる東京市、殊に輦轂の下にある首都たる性質から云ふも、蚊の爲めに苦まねばならないと云ふことは愚かな話ではありませぬか。

韓國の豆腐屋

電話線や、電燈線や、瓦斯管や水道管の障害が小さき時代に、下水工事を進めて置いたならば、今日に至つて無用の費用も要せないことであつたでせう。併しながら今から直に實行すると云ふことは無用な費用を要するとも、全市に未だ鐵管類が普及せられて居らぬ故、無用な費用のうちでも、幾分かを將來に節することが出來るとせば、この敷設事業が一年遲れ、二年遲れするほど、損害が次第に重なる譯であります。この水道敷設の普及と云ふことは直接臺處に密接の關係ある諸姉からも、急設の必要なる議論を聞きたいものであります。

△兒童公園設備の必要

それから、今一つ、兒童の爲めに遊戲所が殆んどありませぬ。九段や日比谷や上野公園等の附近に居るものは、兎に角その不便は無いのであります。けれども、全市到る處に小公園がありましたならば、兒童を安全に遊ばすことが出來ることで御座いませう。電車や車に轢かるゝ危險は、如何やうにしても防止することが出來るのであります。然るに諸姉が此問題に冷淡なるは如何なる次第であるか。萬望、團體的活動に依つて市の當局者——殊に、市當局者を良人とする婦人は、一層その良人を說破して下水及び數百ヶ處に小公園設備を現實せしめられたきことである。

この他、道路を一層廣くすることや、築港をすることや、教育機關を完全にすることや、まだ其の他にいろ〳〵ありますが、私は、就中、全記二問題は、是非とも急設を要するものと信じて居るのであります。

市に金がないと云ふことは常套の語でありますが、庭園稅や、明き地稅を其稅源として市公債を募集すれば、この財源不足と云ふ問題も直ちに解決さるゝこと信じます。博覽會を開設するの、しないのと押問答するよりも、前記二問題の如き必要なものに對して押問答せられたいものと思ひます。

諸婦よ、希はくば、活動以て市の改善に努力せらるゝことを吝み給ふ勿れ、これ實に、諸姉が公衆に對し、公德の爲めに盡す所以のものと信じて居ります。

△新案懸賞の結果▽

先日來募集致しました懸賞の新案に對する應募の結果は、來る二十日發行の本誌紙上で發表致します萬望、それまで御待ちのほどを呉呉もお願ひ致します

偶然には落ちぬ秋の木の葉

理學士　服部寅太郎

▲梅室の句に

ついだもの離れしやうに一葉かな

と云ふのがある。秋の木の葉は譯もなく、宛然接いだものが離れるやうに落ちるものとばかり思て居る人が多いが、よく木の葉の元に溯ぼつて考へると、色々複雜な理由があり、意味があるので、一葉の落つるもの空には看過ごされない。

▲恰かも人が生れて種々の働きをなし、死後の用意をなして死ぬるやうに、木の葉も春の若葉から夏の繁榮を過ぎ、種々複雜な働きをなしつゝ、頓て來年の新芽を生ずるに必要な養分をも作り、其發育の準備全く成るや、秋になつて散り行くのである。

▲尤も常盤木は一年中綠であるが、之とても同じ葉が幾年も續くのではない。ゆづり葉の如きは毎年交代する。松や柏と雖も、いつも同じ葉はでなく常に新舊交代するので、一度に落葉しないまでゝある。凡て常盤木は秋になると葉の働きを止め嚴冬に至れば全く休止するのである。多數の人が常に無心に見て、何の興味をも感じない一片の木の葉、其木の葉の一生は如何なるものかを研究すれば、茲にも造化の妙機が窺はれるのである。

信州の河中島

▲先づ順序として葉の働きから述べんに、木の葉の働きには土壤、水分、溫度、肥料等も無論必要であるが、日光の働きは、更に必要である。故に凡ての葉は日光を能く受けるやうな仕組を有して恰も掌を擴げたやうに平扁く付いて居る。芋畠を見ても、萩の葉を見ても枝は垂れて居るが葉は皆な上に向いて蔭にあるのは少ない。秋海棠の葉も、上の葉は柄が短かく、下の葉柄が長い。これ上葉の爲めに掩ひ蔽くされぬやうとのためで、青桐八手なども、さうである。凡て植物の葉は上下重さならぬやう、互ひ違ひになつて居る。

▲葉が日光を受ける爲めには、枝が明るい方へと伸びて行くのを見ても分かる。例へは家の蔭にある植物は、日向の方に枝を差す森の中の植物は上に出やうとする。これ周圍から光線が屆かないからである森の端の部分は日光が當るから、端の方に枝を伸して上には伸びない、其代り木目が疎で、良材にならぬ。

▲普通の花園では、日の當る方に枝は出る。北向の庭は枝振りが惡るくて、南向の庭ならこんもりと枝が繁げる。又は床の間の活花でも。光線の工合に依つて枝の姿勢が段段變つて、仕舞ひには日の當る方に枝も花も向き直つて終ふ。植物が日光を欲しがることは此通りである。中には苔類の如く、故らに日蔭を好むものもあるが、之は極めて少數で、多數は日光を好むのである。

▲日向草の如きは、日光の強い方に向ふから、莖が廻るにつれても、花も廻るのである。

木子の句に

おのが柄やさして葵のひからかさ

俳句には能く植物の性質を理解したものが多い。花が光線の爲めに開いたり萎んだりする樣を詠んだものでは、古今集の

夢路にぞ咲くべかりける起きて見んと
　思ふを待たぬ朝顏の花

の如き朝顏の餘り強い光に耐へないことを示して居る

ひるがほ、濱ひるがほの如きは炎天にも咲く故に

ひるがほや葉にはつかれぬ見えながら　梅軒

の句がある。其他蓮、春蒲公英、夏杓藥等は日中には咲くが夕方に凋む。蒲公英の花を晝間暗い所に置くと直ぐに萎んで了ふ。日光に出せば又開く。

▲之に反して、月見草、待宵草の如きは夜咲く。蓋し夜咲かないと實が出來ないからで、これはユーカホペツトーと云ふ虫が夜間花の蜜を吸ひに來て、それが又他の花に花粉を持つて行く。斯して實が出來るのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國に對する小名濱の岸頭に立ちて

花は切られて獄門の憂き目——七夕の「西瓜様」——名物のジャンガラ念佛——氣に懸るは家根上の石——賣藥の看板ならぬ半人半魚——漁夫の帳面に「絶對的」の文字

下田次郎

◉身は今磐州小名濱にあり、所變れば品變るのみならず、心もまた變らざるを得ず、こゝにものする雜感は、即ちその結果なり。

◉午前九時上野を發車して、午後五時既にその地にあり。途上太平洋岸を馳す。沿道、撫子、桔梗、女郎花、白百合の花など、惜しげもなく咲き亂れて、既に秋の來れるを告ぐ。もとより無殘なる人手に摘み取らるゝの憂なくして、みなその自然を樂しみつゝあるなり。都會にある花の色は、切られ、燒かれ、挿されて、小暗き床に、獄門の憂き目を見るか、さらずば窮屈なる鉢に植えられて、塵埃の裡に、無垢の花辨を汚さゞるを得ず、運不運は、人間のみにあらざるなり。

◉宿に投ずるや、行李を置き、タオルを摑みて、直ちに海濱に行く。水天一碧、また眼を遮るものなく、身は地球上對岸最も遠き太平洋の斯岸に立てるなり。

寄する波對す彼岸や亞米利加洲

沖は穩かなれども、寄する波の、聯隊の進軍するが如く、長く一列をなして、嵩高に捲くし掛る、流石に太洋の濱邊なり都會の塵は、名殘なく波に洗はれて、心身共に清淨、タオルより垂るゝ水滴、夕日に映じ、水晶の如し。

◉赤き鉢卷したる漁夫、一日の漁を終へて、片手に鰹を提げ、片手には湯桶ほどの飯櫃を抱きつゝ、打連れ、濱邊を行く家には夫や如何に、今日の漁や如何にと妻の待つらん、炊煙淡く漁家の檐を廻る。

◉鰹船は朝遲くも四時には、沖に出で、海岸近く漁る舟も、五時には皆出で行くなり。余は毎朝早起海水に浴し、漁夫の「そろばん」を船底に置きて、岸より海に船を辷り下す手傳を爲す。息のはづめる胸を擴げて、東天に向つて立てば、旭日今や昇ぼらんとす。心氣清爽、快いふべからず、都會の朝寝坊の、夢にも知らざる境涯なり、氣の毒なるかな。

◉夕になれば、千鳥群をなして磯傳ひに飛ぶ、小蟲をあさるなり。ピヨ〳〵と鳴く聲、笛の如し、日中は遙の沖に浮び、夕方より夜にかけて、磯に來るなりとぞ。夜明けて磯に行けば、その足跡を砂上に印し、千鳥はもはや在らず。歌には聞き及べど、その實物を見るは、始めてなれば、歌人ならねど、いと〳〵うれし。

◉八月二十一、二日は、舊七夕なりとて、色紙に何か書きたるを、笹に結ひ付けて、家々の檐に立てたり。永き都會の生活に忘れ居たるを、こゝに見て、昔を懷ふ。二十余年前、七夕の歌を色紙に書き、漸く飽けば「天の川様」「西瓜様」など書きて、笹に付けて立て、茄子、瓜、芋など、三寶に載せて供へたる樂しさよ、都會の子どもは、これを知らず。舊弊と呼ぶ人は呼べ、我等は斯る年中行事は保存したく思ふなり。されど今の子どもは、色紙は七夕の歌は書かで、小學習字手本の文句、いろはなど書けるは、時代の推移是非もなき事ならん。

韓國婦人の洗濯

◉當地にては舊暦の方勢力ありて、取引勘定のみならず、子どもまでが、この方を用ふるなり、古き習慣は脱けがたきものなり。

◉當地名物の踊ジャンガラ念佛も、舊盆にはありとか。見るに及ばずして、この地を去るは口惜し。一概に盆踊など禁止するは、間違へる處置なりと思ふは、余誤れるか。

◉夕食後寺巡りす、高く疊まれたる石段、鬱蒼たる幾株の老松は、昔ながらの姿を存せるも、寺は見る影もなく、僅かに殘れる小さき御堂の縁側には、鍋、釜、手桶など、臺所道具の並べるさま、これが大伽藍の成れの果てかと、涙のこぼるゝほどなり。今日地方寺院の衰頽は、何處も同じ。このまゝにて進まば、寺院は遂に礎石のみを殘すに至らんも知るべからず。先祖代々の石塔は、或は倒れ、或は傾きて阿伽を汲む者もなく、全く荒るゝがまゝなり。かくては祖先崇拜の我が國も、遂にその歴史傳來を捨てゝ、據る所なきに至らずや。憂ふべき事なり。

◉氣に懸るは、屋根上の石なり。この地方にては、屋根に木の皮など置きて、上に重しとして、無數の石を載せおくなり。中には皮朽ち、檐垂れて、今にも石の落ちかゝらんさませるがあり。落ちて頭を割りし者はなきか、人事ながら氣に懸るなり。これは貧しき家に多し。富めば、自ら瓦葺となるに至らん。

◉一日濱邊傳ひに南方里餘なる劔崎に行く、岬は海中に突出して、眼界廣濶、左右に小名濱、平潟の弓形に連れる濱を見下し、前方水天相合ふの處、遙に鰹船の白帆を見る。我は、岬の絶頂に立ちて、太洋より吹き來る風を、眞向に受け鬢髮衣服をあほらせつゝ、胸一杯に、呼吸して、來年夏まで一年分の新鮮なる空氣を吸ひ置きたり。その眺め、この風、我が壽命を延ばさしむること幾許ぞ。

◉崖下は危岩亂立、暗礁蟠踞して、寄せ來る波の、雪と崩るゝ邊、漁夫は水底に鮑を探るなり。片手に庖丁の如きものを持ち、片手に網袋を提げ、眼鏡をはめて水中を窺ふと見るや、底深く潜りて、出で來らざること二分。あはれ海底の藻となれるかと思へる時、浮かび出づるを見れば、手に持てるは大鮑なり。半人半魚は、賣藥の看板とのみ思ひ居たるに、今やこれを實地に見ることを得たり。

◉三十分にして上り來り、地上に繞坐して相語る。皮膚は年中の日光に曝されて澁の利いたる澁紙色をなし黑光に光れり鍛へ上げ曝し上ぐれば、斯の如くなるものか。これを皮膚蒼白にして光澤なく、少しく冷氣にあへば直ちに喉を痛め、風邪をひき、首を眞綿につゝむ都人士に比して、何たる相違ぞや。今の文明は、自然の賊なり。夏にも手袋をはめ、決して足を露はさず、胸をも寛がしめざる婦人の洋服に於て、ことにその弊の甚しきを見る。自然の手を出し、足を出し、胸に風を通して、往來の出來る日本の婦人は幸福なるかな。

◉漁夫の鮑の目方を量り、價を手帳に記入計算するを見れば、木筆にて西洋數字なり。中には「絶對的」などの哲學語を使ふもあり。皇化の普及こゝに到れるを贊嘆せざるを得ず。一箇二百四十匁の大鮑を初め、その數個を求め、夕暮宿に歸りてこれを食ふ。眞に天下の美味なり。

◉當地の名産は鰹を第一とし食鹽、鮑これに次ぐ。近くは靜岡の發明家鈴木藤三郎氏の大規模の、製鹽所あり。自然と人爲と共に見るべきものあり。小名濱の將來は有望なりといふべし。

新築落成
九段婦人看護會
業務擴張
産婆　船曳みき
麹町區飯田町一丁目八番地
電話番町一一〇四番

京都御料理
お多福豆
平野家東京支店
電話本局三千百三十番
東京日本橋區上槇町拾壹番地

小兒病診療
往診午後
宅診午前
淺草區新福井町二（瓦町電車停留場際）
醫學士　内田愼太郎
（電話下谷七一八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新講談

上總姫

つくばね

(まへがき)

里見兵部大輔義堯、武威關東に振ひて、房總二个國の外、下總の過半を擊從へ、四十八城の管領たり。天文八年七月、京の浪士、森島紫二郎をして、家臣繼橋氏を嗣がしむ、繼橋氏の女、鮮衣容姿端麗貞淑にして温順なり、琴瑟相和して一女を擧げ、之を楓と稱す

之より前紫二郎なほ京師にあるや、管領右京太夫高國に仕ふ。妻を片埦と云ひ、唐草紅皿の二女をあげて一家時めきしが、天王寺の軍やぶれて、高國尼ケ崎に自害するの日、紫二郎遁れて一人東に走り、即ち里見氏に倚る。戰國の世の倣ひしなれば、妻子の生死も極め難く、即ち管領義堯の旨に從ひ、繼橋氏を襲り名を紫太夫と改めぬ、本篇述ぶる處は之より後の物語なり。

(一) 鮮衣の死

鮮衣玉の如き女兒を擧ぐ、一門の慶び譬ん方なく、楓と名稱けて五十日百日の祝ひも過ぎぬ。

されど産後の肥立ち惡しくして鮮衣は可惜二十歲の花盛りに、懷かしの夫、いとしの兒を殘して逝けり。

楓十四となりぬ。或日紫太夫の門邊に訪れ來しは、絕えて久しき前妻片埦母子なりき。

「こは夢か、如何して尋ね當りしぞ」

「さればこそ……」

流石に女氣の弱ければ、頓に答も出でず、まづ先立つは涙なり。

暫くして片埦は、尼が崎以來流離幾年の憂さ辛さを物語る。

唐草紅皿は十七と十五、共に萎やつれたれど、母の子なれば、美しからぬ筈なし。如何なりゆく事かと、慄えがちに俯向き居し楓は、軈て片埦母子に引合はされ、其日より楓は、片埦を母と、唐草紅皿を姉と呼ぶべき運命となりぬ。

(二) 美人楓

紫太夫一軍に將として、長く家に歸らず、片埦の我儘勝手なる振舞も知るに由なし。

片埦は死したる鮮衣の三國に名だゝる美姫なりしと聞き、妬心押へ難く、その忘れ遺兒の楓が、長ずるに從ひ、天性の麗容玉の如きを妬み、紫太夫あらざるを幸ひとして、髮を梳づることを禁じ、粗衣を纏はしめ、斯て光の洩るゝを防がんとせり。

されど其は徒勞に歸せり。天の成せる美貌は、人爲を以て隱すこと難し。美人楓の名は、その昔楓の母鮮衣が若き日の、夫にもまして若殿原の血をたぎらせぬ。

片埦は遂に楓を炭部屋に幽閉せり。楓の名これより聞えず、繼橋の美人姉妹として唐草紅皿の評判たかきを見て、片埦すこぶる喜色あり。

(三) 崇高き貴公子

里見の宿將正禾彈正時綱は房總の重鎭なり。其子左金時忠才貌並び秀でゝ、天晴凛々しき若武者なるが、一日騎して紫太夫邸の裏を通るに、物置に若い女の泣聲、心得がたしと、密かに物の影より伺ふ共知らず、今や片埦は紅皿と共に、些細の種を以て、楓を打ち据ゑ、死ねかしの折檻、一しきりして彼等は出で行けり

口惜しさ、悲しさに、一人楓はよゝと泣俯してあり。

左金時忠之を哀みて、密かに接付

「やよ姫！」

と呼びぬ。

呼ばれて楓は、驚きつゝ顏を仰げば崇高き貴公子の、綺羅美やかなる打扮して馬より下る、留奇南の薰り馥郁たり。楓は羞かくさに得堪へずして、立駁れんとせしが

「な驚きそ、我は正禾左金なり」

と云はれて、頓に答も出來ず、たゞ俯伏して居ぬ。

左金の名知らぬ程のもの、國中に無ければ、幽閉の身ながら楓も、

「さては」と思ひ入りぬ。

左金は楓の心落付くを待ちて、仔細を問へど、

「家の恥、身の恥なれば」

と堅く口を閉ぢて語らねば、其心根を憐れみて、左金その日は、只何くれとなく慰めて歸りぬ。

(四) 暗き行季

斯かる間にも片埦等が惡策は、着々進みて、遂に楓を人買ひの手に渡さんとしぬ。哀れなる運命の波は、か弱き楓の一葉を何處までも、惱まさんとするなり。

とも知らず寢てありし楓は

「吐嗟！」

と叫ばんとする刹那に、暗き行季の中に押し籠られぬ。

(五) 炭部屋

銀鞍華冑玉の如き身を飾りて、剩へ智勇並び勝れたる左金も、戀にはもろき世の倣はしに洩れず。一度楓の明眸皓齒磨かずして光る玉の姿を見、親しく語を交へて、貞淑溫順の性を知りてより、心恍としてまた忘れ難く、重き身を持ちて、夜にまぎれて楓の押籠られし炭部屋を訪はんとせり。

(六) 人買ひの手

兼て容子は知りたれば、手探りに近寄り、忍び音に

「姫よ」と呼びぬ。

直ぐにも迎ふべき楓の聲は聞えず、炭俵、あら筵など取亂されて、暗き乍らに事ありげなるも道理、左金の來ること今一時早かりしならんには。

楓は既に行季に押籠られて茲にあらず

左金亦おもはず

「吐嗟！」と驚きぬ。

されど流石に智勇すぐれたる彼れは、まづ靜かに紫太夫邸内に、楓の有るや否やを察し、全くあらぬを知り、次に彼は片埦等の密語のうちに、彼等が楓を人買ひの手に渡したるを知りぬ。

(七) 繼橋の名花

左金は利根川べりの港を指して、馬を驅りぬ。空しからざりき。天は左金の力を權りて、怪しき運命の下に、賣られんとする少女を救ひぬ。

繼橋の名花、無慘に散らんとして、危くも銀鞍華冑の名門に護られぬ。

楓は泣いて感謝の意を表しぬ。

左金も亦生れて始めての涙を流して、神に感謝の祈りを上げぬ。

(八) 好配佳遇

楓に依りて片埦紅皿等の奸計を知りたる左金は、心より彼等を憎み、折あらば手いたき目見せて呉れむと伺ひぬ。

されど楓が泣いて止むるに、心ならずも思ひ止り、先づ一往十什を父なる時綱に告げ、終りに楓に紹介せしに、時綱其の貞淑孝悌を賞し、喜びて左金との婚儀を許しぬ。

されど考へもあればとて、楓をばたゞ上總姫と呼ばせ、單に上總の某名家の息女と披露したり。

(九) 千部供養の日

弘法寺に法華經の千部供養ある日なり老弱男女途去あへず、片埦も亦唐草紅皿を連れて、群集に交りて行く。

折しも大家の奥方と覺しく、緋の油箪したる一對の挾箱を先立てゝ、同じ袋を掛けたる薙刀持たせ、鋲乘物の前驅後從嚴めしきが彼方より來たれり。群集の目は期せずして夫に注がれぬ。片埦らも之を見て

「あな目醒まし、正禾殿新婦御前歟、ここらに多く有るべうも覺えず、避けて通せよ、無禮なせそ」

と警めつゝ走り過ぎんとする程に、紅皿誤りて乘物の戸に、泥をはね掛けぬ。

「こは狼藉！」

「誰殿の内室令娘にか名告り候へ」

從者等は敎圍きつゝ片埦等を取卷きぬ

(十) 楓！上總姫!!

片埦は紅皿もろ共阿容々々と、泥の中に小膝を附き、母子諸共面を曝し、膝を折り泥に塗れて罪を謝す。

楓今は上總姫と呼ばれて乘物の中にあり、かゝる母子の光景を見るに忍びず、

「過失とあらば咎めずに過ぎよ、うたてき事を見るものかな」

と云ふ。その聲を微かに聞き、楓のさまに似たるに驚き、片埦等おそる恐る頭を些し擡ぐる時、さと吹く風に御簾飜ひるがへり、崇高くも美しき新婦御前の姿は現に見えぬ。

綾羅きらびやかに濃化粧したる其の俤似たりとは愚か、楓その儘なるに、再びはつと俯向きぬ。

嘗て楓を憎み、之を監禁し、遂には人買ひの手に迄委ねたる片埦等は、白晝公衆の面前にて、泥中に額付きつゝ、楓と知らずして楓の前にその罪を謝すべく餘儀なくされしなり。

之を始めとして物語は、なほ多くの痛切なる應酬を片埦等の身に加へ、以て憎むべきその罪を責めむとせり。されど記者は楓の出世立身を以て、一先づ筆を擱かんとす(完)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

孝女お市(三)

物集梧風作

「お父様の御心は何時でも、お美くしくつて能く神様や佛様に御仕へなすつて御出事は斯様な罪を御犯しに成つたと言ふのも皆んな、妾達を楽しく面白ろく、暮らさせ様うとの御心から出た事で有るから何うかして妾達がお身代に成つ上げては如何うだねえ」

とお市の申すのを聞きておまきも大想嬉びまして承知致しました。お市は猶も話し續けて、

「妾達五人有るがねエー、長太郎は男子でも有り又義理の兄弟だから、止めて置きてお母様お養なひ申して、費らふ、おとくや初五郎はまた少ひたら殘して置ゐても仕方が無いから一緒に連れ行から」

と二人は話を纏めて、直ぐに寐床からそつと起き出して参りまして、着物を着かへて、火をかき立てゝ願ひ書を書き始めました。

　　願書

親の代りとは申しながら五人の兄弟姉妹の中に長太郎は義理ある兄弟にて候故に殘りの四人を父の代りに命を御取り下されなば有難き幸にて候、

霜月廿三日　　代人市

御奉行様

と書き終りて、直ぐに奉行所に行かうとしましたが、扨て二人とも道を知りませんでしたから長太郎をゆり起して道案内として行きました。其の時、夜はほの〴〵と白らみ渡つた時分で御座りました、長太郎は怪んで如何な譯けで奉行所に行くのかとお市に申しましたからお市は其の事を一分終什、話しますと長太郎も其の仲間入りをせまりながら奉行所に着きました、一體御奉行様は二人あつて、一ケ月交代で有りまして、東の奉行、西の奉行と申しました。此の月は西の奉行の番にて訴へ事をお取りに成つて御出でに成りました。

お市は其の願書を差し出しましたが下役人は其れを見て

今更そんな事を言ふて最早や、斬られる様な大罪を犯した者で、今日肆さる様に迄でも罪が明らかに成つ居るので有るから、今更何と願ふても駄目だから早く歸れ

とおさとしに成りましたが、お市は唯だ泣て居て退きません。其の泣き聲を奉行様が御聞に成つて出て御いでに成りました。其の事を御聞きに成りましたが、何とも仕様が御座りませんから、役人に申し付けて金でも遣つて歸して遣れと仰つしやりましたから、下役の者はお市に金を澤山遣つて歸させ様と目の前にお金だの反物だのを置てお市に與へ様としました、けれとお市は

「妾達は只だ父の命を戴きに参りましたので御座ります、其の外の物は何にも入りません」

と押し返して、又ワット泣き出しました下役も今はもて餘まして、

「もう今と成つては幾何ら泣ても追付かぬのだから早く家に返へたが宜からうと懇に申してお市の身體を抱き起してやつとなだめつ、すかしつ、申しますので、お市も泣き〳〵家に歸りました。此の時、丁度、御城司様が外の用で此の所にお出で成りましたから、奉行は御城司に今朝斯様な憐れな、願人が有つたと申して事の始末を御話に成りました、處が御城司は殊の外に可愛想に御思召して、

「其は誠に不便の者だから、明日今一度呼で出して、其の願ひが僞か眞か何の位に深いか誠の處を試して見てやらう」

と仰しやりました。

翌る日御城司は東の奉行様と一緒に西の奉行所にお出になつてお市の來るのを待つて御出でした。

白洲には、町の頭役、五人計りづらりと平伏して居り、側には種々の責め道具を列べ置ゐて、一言斬れと有れば直ぐに斬る用意し在りました。お市を御呼び出しに成りました。お市達は御白洲の前に平伏して仰せを待つて居る處へ奉行様は御出でに成り、お市に向ひて仰つしやるには、

「お前達の願は無益の事であるから思ひ止どめる方が宜からう、お前達が責め殺されて終うと又皆に逢へ無いのは丁度お前達の父が殺されて逢へ無いのと同じだから、そうしても仕方があるまい

と、其時お市は頭を上げて申しますのに

「其の理由は存じて居りますが、父上と妾達が代りて、父が召し返されて、逢へ無いと言ふ事は少しも御怨み申しません」

と云ふ、奉行様は又

「此の願書を差し出して、其の中に母の名が無いのは又如何んな理由か」

と仰つしやるに、

「皆な命を失うと申す時は出してくれぬは勿論の事にて候は譯りきつたる事で御座ります故に母には知らせずに参りました」

と申を、奉行は御聞きになつて、

「父の身代りに成ると、斯様な苦るしみこんな悲しみ」

と色々申されしに、お市の答は少しも滯る所ろなく、申し上げて、眞實に、死を覺悟して居る様に見えましたから、今度は長太郎の方に向ひ

「長太郎は如何うじや」

と申されしに、長太郎は。

「恐れながら私も獨の願書を持ちて候と袖の中より一通を取り出して奉行の前に捧げ

「例親子の契りは變り候も恩を受けた事は少しも變り無く候、母の身代は女子でなければならぬが父の身代は男子が眞にて、此の長太郎の命を召て下されませ」

と進み出でたり、

「とく、初五郎は如何うじや」

と御尋ねに成りました、おとくは顔色變へ、初五郎は頭を振りて、御言葉を嫌と申しました、其の有様は又一しほ憐れで御座りまして、奉行様始め、居列びて居た人々は皆泣かぬ人は御座りませんでした。其の日はそれにて終り、お市達は家に歸りました。

日光裏見の瀧

日誌　活きた世界、活きた社會

▽八月十六日　深川八幡大祭本日終る

▽十七日　北京大學教習たりし桑野、矢部、氏家三理學士阪本文學士及高橋法學二氏は三等第一勳章を、服部博士には繻に二等第二勳章を贈れる爲 文科進士を清國より送られたり

▽十八日　米國グラスゴー市商業區イングラム街にて大火あり損失廿五萬磅に及ぶ

▽十九日　澁澤男爵始め三十餘名の渡米實業團本日出發見送人多く盛况を極む

▽二十日　米人ウエルマン氏は空中船に乘じ北極探檢の途に上れり△大阪火藥庫爆發す

▽廿一日　米國鐵道王ハリマン氏は神經衰弱の結果當分事業界を退隱せりと風說さる

▽廿二日　久邇宮邦彦王同妃兩殿下には米國へ向け英國倫敦を出發遊ばさる△東亞製糖會社々長重役等拘引さる

▽廿三日　濠洲ヴイクトリヤ州に於ては豪雨の爲め四十年來未曾有の大洪水を起し損害死傷莫大なり

▽廿四日　故伯爵二荒芳之氏の葬儀行はれ北白川宮大妃殿下以下會葬多數なりき

▽廿五日　關西の掏摸千數百人檢擧さる

▽廿六日　臨時軍用氣球研究會組織され長岡中將委員長、長岡、田中館中村三博士以下海陸將校數人委員となる

△廿七日　海軍將校日高大將、橋元、井上兩中將以下數名豫備役仰付けらる

▽廿八日　先頃本所にて發掘されし七十年を經たる世界無二の屍蠟帝國大學に寄附さる

▽廿九日　東京府下雷雨あり落雷數ケ所に及ぶ

▽三十日　日韓事蹟編纂の議あり伊藤公爵總裁仰付けらる

▽三十一日　皇太子殿下第三十回御誕辰につき日光御用邸に御避暑中の同殿下に天皇皇后兩陛下より御祝儀として鮮魚一荷を御贈與あらせらる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文　はつ秋

棚經　京都　但村はつ

京は八月に魂祭す、折節母旅行中故、今年は我主となりて其設す。いとう哀に香煙の鼠尾草をめぐれる前に、荷葉浮べて水まゐらす、瓜の馬は召せとの心にか、さりとては小さき佛様哉、麻、木箸、長過ぎたらん。かかる矛盾もまた哀にをかしと、神妙に仕へ參らす、折柄老僧の白衣尊げなるが、棚經とて來玉ふ、知らぬ御顔ながら、懇に供養しおくり出す、引更へて若僧の見知れるが、入り來玉ふ。きけば老僧はかたりにて御座せり。（一等）

睡蓮　大阪　山下彌生子

鉛をとかした樣な、荒れはてた御寺の池に、ひつぢ草の花がたゞ一つ浮て居る、水馬がすうつと輪をかいて花をかすめた、鵠の羽のやうな花片はゆら／＼と揺らいだ水の面は、思ひだしたやうに漣を立て居る、青い楯を浮した樣な、葉も小波にゆられて、上にあつた眞珠のやうな水玉が、急に少さく／＼砕ける、水輪は次第に大きくなつて、岸にのこれる青い黒い千古の色をたゝへた御池は、かくて永久に白い影を映すのでもあらう。（二等）

乳母　東京　佐野くに子

乳母は語りぬ。世にも頼みし獨息子と別れて西の京にありしも、子を思ふ餘り東の旅の嬉しさ、これにまさる思ひはなしと喜びしも束の間、つれなの我兒の心根に温かき夢破られて、干しもあへぬ袖の露、罪の子よ、乳母は今宵限り東を後にと咽びつゝあるを、もらひ泣きする我等より其位置の乳母の心は……。（三等）

秋　横濱　鈴木松子

もう秋が來ました、淋しい／＼秋が、この淋しい秋が私は好きです、人からみれば變人とおもふでせうが、垣の朝がほは漸々花びらがちいさく、數もすくなくなりまして、朝々に露がかゝります風情や、ほそ／＼となく蟲のこゑ、私は淋しい乍らすきでございます、くれゆく夕暮に果しもない空を見まして獨りで涙に袖をぬらして居ります。

○　相模　加藤李花

涼しき松山かげ、ほのかに白うみゆるは、こたび立てられんとする第二の我家、此方には見るからにのどけきは釣瓶の、かたへの松に風情そえて立てるもゆかし、見渡せば打連なりし並木の老松、うす淺黄の空の地を、やさしきばら色もて染め出し、天空に一幅を双肩にになふ老宰相の如く屹立せるあらはさんに言葉を知らず、遠く聞ゆる濱の音、靜かにひゞく馬子の唄、これぞ我等が住める平和なる漁村の夕

濱邊の夕　横濱　後閑らく子

よせくる波に追はれて居た水鳥の群も、一つへり二つへり、はては皆見えなくなつて、波止場の方の黒船には、早いくつとなく燈火がつき、その影がきら／＼と波に漂ふて、さながら螢の亂るゝやうなり、海べには見るから涼しげなる白き衣をまとひし西洋人の、夕風をあびながら、松の木の間を散歩して居ます、ああ何といゝ心地でせう、磯山からは月さへ涼しく上りました。

渡し舟　東京　中山由子

西の空もえて吾妻橋くろく浮び、隅田川の小波いと美しき夏の夕、竹屋の渡舟に若き商人、老ひし切髪の人と乘合ひぬ、切髪の人の面ざし、鄙の伏屋におはす我母上によく似てなつかし、ましてあの優しき眼もと、ああ戀しや故郷と川上見やれば、筑波山は見えず、雲の峰いたづらに高く聳えて居るも憎し、若き商人何に興じてか、艫こぐ船頭どのと笑ひ合へり。

秋の夜　京都　白百合子

秋立ちて間もなきある夜、まどらかに結ひし夢ふとさめぬ、晝の暑さは變らねど、靜な夕なわけてふけ渡りたる夜のまくらに、かよふ涼風は、身にしむをおぼゆよし戸にてもさゝましと、やをら身をこし立ち出つれば、庭の松が枝に廿日あまりの月、消うかゝりぬ。うつくしき光りに、しばし心うばはれ、見守り居れば、いつこよりか、かすかなる蟲の音も聞ゆ。

夕ぐれ　東京　山本ふみ子

晩鐘はれむらんとする黒き木々に響きて流れぬ、空は彩り漸くうすく、明星一つ夢の如くに瞬きぬ、母樣の背にすや／＼ねむる末子と、我と妹三人簷端にて佇むに、橋の下より繰り出す舟の、夕飯の音ちらりと聞かせて、紅ち輪の如く夕霞の裡に消えつ、あはれ一年―十年經し五人―運命の手は如何に弄ぶならむ、わけて遲れ難きは、波の數よる母の老姿見るわが眼なるべし下を流るゝ水、岩に囁きて淋しう、白き笑みを浮ぶるなりき。

注意。住所氏名を明記せざるものは、如何なる佳作と雖も掲載せず、但し誌上の匿名は隨意とす。

長詩　秋の聲

夢の香　京都　但村はつ

いともほのにほのかに
薰じひろごる夢の香。
亂調の絃のよはきひゞき。………
疲れたる胸の奥の奥ほのに
鳴りやまぬ血潮にふれて遠く
いともゆたにたゆたに
なびきひろごる夢の香。
鈍色の愁の雲を吹きそよぎ。……
こもりたる憧憬の火の走り火の
ちらと洩れてまた消ゆるともなく

燃ゆるともなくゆたに
うち烟りて迷ひ痴れてたゆたに
しばし我忘の境に……。

秋草　東京　佐野くに子

病みて臥せるこの三日の
落日うすづく夕まぐれ
聲する方に妹あり。
姉よと呼びて八千草の
玉露かをる秋の花を
枕邊ちかく手折り來ぬ。
花よ妹よ秋草よ
心づくしの秋草よ
妹が心をとこしへに
此の歌卷に秘めて忍ばむ。

狂女　東京　えい子

草木も眠る眞夜中に　しゞま破りて泣きさけぶ
女の聲の聞ゆなり　枕片手に耳そば立てば
坊よ坊よ坊は何處ぞ　やよ待ちれ我とく行くに
彼方此方にかけりては　消え入るばかり泣さけぶ
しばしして數多の人の聲々と　次第に遠く薄れ行く
血をはく聲の聞ゆるは　子故に狂ふ女かも

嫩草會詠草

○　但村はつ子

我を引く力たらはぬあはれみとあざみとあれどさは憎みえず
心ふと夢の空洞の八岐路に入りにし日より君をおぼえぬ
より／＼に妬み誹謗す生れ來て其處に何等の意味もなき子等
こひなきを誇りに生ける三十の君にかなしき女のさだめ
先つ日の讎かりけるあやまちにわれをせめつゝ心おちゐぬ

○　中村えい子

虫干しに袴出にけり學びやの昔こひしき心地するかな

○　内海勢以子

せみ時雨木立のなかにひろれするそまが夢路をやぶりけるかな

○　宇佐美駒子

うしろ髪ひかるゝ心地なつかしきみやこに別れ今日かへり行く
しづみたる心にわかにときめきぬ里の野山の月なつかしき

○　龍江と代子

白百合を一つ見出でゝ手折りけり髪にかさして君を訪はまし
水上に誰が流しけんなつかしき我立つ岸によするなでしこ

會員動靜、客月中但村はつ子氏は藝州嚴島へ、佐野くに子氏は豆州修善寺へ、楢野ゆき子氏及北條すゑ子氏は上州伊香保へ孰れも旅行せられたり。なほ客月中入會せられしは内海勢以子氏及中村えい子氏（東京）の二名なり。

立ち行く人に　東京　内海せい子

み寺の塔にうつ鐘は　今入相を告げにけり
波路の末にはるゞと　しほ湧きかへる夕波に
なごり沈みて外つ國の　暗の荒海にいさましく
立行く君のいとをしゝ

○　靜岡　潮生子

朝顔のひづる音なく　糸に似し雨ふる夕
たゞ一人細路たどりて　おとづれぬ歌ある御寺
あなうしや柴の袖がさ　忍び戸はおせどたゝけど
色さびし庵のかけいた　蝸牛すがたは見せず
たゞ白く秋立歌を　なが／＼と讃日か書ける
きにくしや梧桐のひろ葉　三界來苦青きにちりぬ。

秋　東京　山田たみ

秋は來ぬ　格子のベルの靜かに鳴つて
芭蕉の葉が戰ぐ　銀杏の病葉が黄色な血を吐て
秋は來ぬ　螢の火花を散した川が
水がすんで魚が遊ぶ　今に紅葉の錦が散る
秋は來ぬ　叔父は死んだ、ほんとうに
月が冴へて影がゆらぐ　私はまだ生きて居る
叔父は死んだ、永久に。

秋雨降る　京都　つき子

秋雨くらききまどのもと　こぎ行く舟も音たへて
なきかの君が筆のあと　一人讀むこそ淋しけれ

折にふれて　横濱　鈴木松子

起きいでゝみれば霧深く　垣の朝がほ美しき
今日秋たちしと思へば　そよ吹く風も何となく
涼しき日なり野を遠に　黄金の波もさや／＼と。

▲雜報　本誌第七面に掲載の廣告「名和式蒸焼器」と云へるは在來の「テンピ」より勝ること數等にして價も格安なれば評判頗る好し　▲麴町區飯田町一ノ入九段看護婦會にては今般新築落成せしを以て、業務を擴張し各熟練の者を聘し、懇切に患家の依頼に應ずと

阿部彦四郎商店
東京淺草茅町淺草橋際長電話下谷一九二三
富貴竈
富貴式風呂釜
洋食器
食卓用品
石油瓦斯コンロ
鐵瓶湯沸類
目録進呈

和歌　秋季雜詠

大口鯛二選

天

ひとへ衣うすくおほえし夕より聞え初たる虫の聲かな　三河　木原貞子

評曰　尋常一樣の事も時に入つて感あり

地

竹の杜傾く庵のませ垣にやせ〱さける白萩のはな　京都　但村はつ

評曰　住む人は年若き尼か或は眉白き翁か

人

茜根さす夕日はしづむ遠方の大野はるかに秋の雲浮く　下野　瀧澤秀子

評曰　廣原の秋夕盡水彩畫中の景

、、〇甲部

うたゝねのきのふの夢もさめはてゝあしたすゞしき秋はきにけり　神奈川　足立原政子

洗ひ髪かたなかすめて汐風のすゝしき磯にひとり月みる　東京　伊矢野學

ひろこりて心のまゝに咲きにけりふるゐのもとのいねたての花　下野　田村やす子

、〇乙部

垣間よりほの見ゆるこそなかしけれとなりの庭の花の朝顔　石川　寺本篤子

あまりにも枕にちかき蟲のねにこゝろはすみてねられさりけり　横濱　鈴木松子

あれはてゝ月はかりすむふるさとのかきねのはきもさきいてにけり　長野　高橋清子

蟲の音もかすかにすなる我庭の露のまがきに萩の花さく　京都　白百合子

露にふし風になびきて女郎花さびしき野邊に匂ひこぼるゝ　備中　林秀子

うらがれしかどの小川のあしのはに夕さびしく秋風のふく　甲府　金子きよ子

山がつが柴にそへたる一枝はいつこの山の紅葉なるらん　甲府　加藤千代子

心してきけは蛙にこほろぎのこゑもましれり秋やきぬらん　岩代　西山佐保子

日ざかりのあつさ昨日とかはられど夕露こぼす風の身にしむ　三重　日野千鶴子

賤の男が刈のこしたる草むらにさびしく咲ける鐵さかの花　徳島　齋藤崇子

〇丙部

けさははやふきかはりぬる風の音におどろかれけり秋きたりとは　三重　莊司種子

木かげのみしたふかりぬの夢さめてさらに身にしむ秋の風かな　神奈川　足立原とく子

秋立つと聞くその夜より我庭の蟲のこゑにも耳かたむけぬ　東京　土師利根子

秋のよの月かげきよきにはのおもにひともとすゝきたれまねくらん　筑後　佐藤とも

あか〱と海に生るゝまん月が浪にゆられていさゝ舟漕ぐ　靑森　竹林秋子

旅やかたれさめそつらき故鄕なしのべとてなく蟲ならなくに　近江　石井田すゑ子

母さまとれられぬまゝに亡き君の昔をかたる秋の長夜や　岡山　西村長子

古里の小川のあたり河鹿なくこゑさへ今はしのばるゝかな　横濱　後閑らく子

やむ身ひとりやれし小窓にそと凭りて空行き雲の行方あふぎぬ　遠江　勝田くに子

俳句　秋の聲

森ふつか選

天

淺茅生やしらぬ蟲啼く晝の月　京都　はつ女

評　傾く軒を漏るゝ蚊遣火

地

先生の白衣汚れて秋近し　東京　芳賀りゆ

評　要なき宿に集ふ兒の群

人

人分けて警鐘を聞く暑さ哉　長門　鷹田良子

評　掏摸の手忍ぶ懐中の袿

佳作

消え殘る燈籠紅き濃霧哉　岩代　須田尾上子

蟬なくや盆を現の屋敷守　横濱　上杉らく子

朝露や花亂れ咲く小さき墓　東京　中山由子

秋風や百萬石の稻の濱　備後　世隈龜子

桐散るや古行燈の吉丁子　京都　はつ女

わびしらに秋立つ下宿住居哉　東京　芳賀りう子

蟬一つ啼出して子に追れけり　長門　鷹田眞子

降る雨に舟も花火も亂れけり　東京　中山由子

曉して秋立つ今夜の衣かへ　大阪　鶉生子

講中や揃ひの浴衣粋まうて　横濱　後閑らく子

假寐の袖に月あり夏木立　靜岡　山下彌生子

明放す大手の門や宵あらし　靑森　竹林秋子

三尺の流れ涼しき鎭守かな　東京　西村つる子

溫泉の煙吹きなびきけり青簾　三重　莊司みや子

蜘の巢に蜻蛉死にたり秋の風　岡山　西村長子

隣同士擣衣に世間噺かな　東京　松本和子

螢草踏むや露けき朝朗　下野　瀧澤秀子

△文苑規定▽

和歌　秋季雜詠（毎月五日）　大口鯛二選
同　隨意（毎月廿日）　編輯局選
俳句　同上（毎回）　同上
短文　同上　同上
長詩　同上　同上

▽和歌は一人二首限り端書又は端書と同形の厚紙に限り選者の名を指定されたし△

▽俳句は一人五句限り△短文及長詩は孰れも三篇を限る△

賞品　特選に對する微賞は發表後一ケ月以内に贈付す。

應募　者は婦人に限り、住所氏名を明記せざるものは選に加へず。原稿は發行前十五日までに到着するやう御送付ありたし。

此の薬は人手を借らず使用頗る簡便なるを以て御婦人の富士の額や月の眉、水際立ちたる襟脚などを作らるゝには尤も妙にして殊に刄物を用る事のできぬ處即ち腋下、股間、肛門抔の毛を脱る塲合に使用すれば適品なり

定價　大瓶一圓　小瓶五十錢　送料八錢

製造發賣元　日本美顔洋行

信用ある各賣藥店にあり若し無之節は本行へ申込まれたし（無効返金）

內科一般

午前宅診
午後往診

東京神田美土代町三丁目十七番地

板垣亭

電話本局貳千九百七十番

內科專門

神田區駿河臺
電本一六六九

杏雲堂醫院

院長醫學博士　佐々木政吉

◉**小川產科婦人科醫院**

●不姙症●流產豫防●入院隨時產室設備

四谷區荒木町四番地（電話番町八六三番）

●●●
內科一般（殊に呼吸器病諸傳染病）
外科
入院隨時

東京市神田區北神保町八番地

神保院

院長　鈴木馬三郎

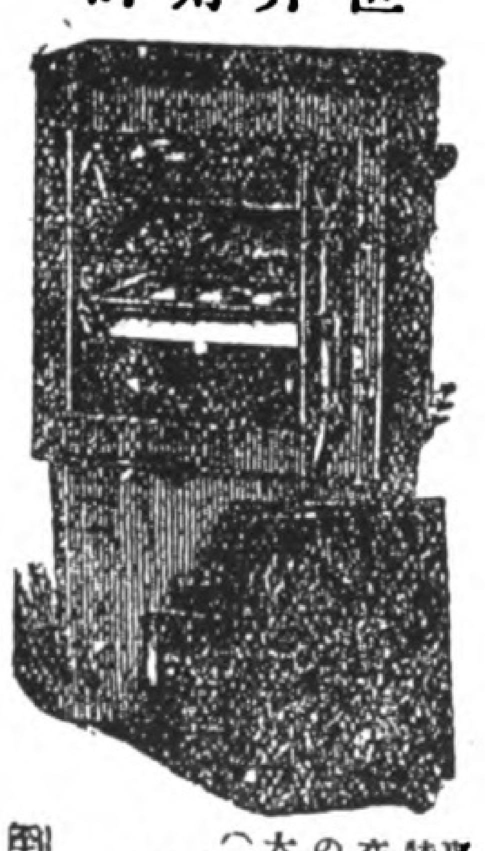
電話本局七〇一番

東洋音樂學校

九月六日始業
生徒募集
東京神田裏猿樂町

家庭の重寶

世界好評



專賣特許　**名和式蒸燒器**（一名テンピ）

在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋料煮に最適當の器なり、大器二圓七十錢　中器一圓廿錢　小器一圓七十錢
（一說明書往復はがき）

東京市日本橋區蠣殼町二の一五

名和商店

電話浪花一一七七
振替貯金一〇二五四

到る處（金物店洋食器店）にあり

美顔タオル

定價

特製（美顔替袋料二百五十日用分付）　金壹圓
甲種（美顔替袋料百五十日用分付）　金六拾五錢
乙種（美顔替袋料七十五日用分付）　金五拾錢
送料　市內は御一報次第無料配達　地方は送費八錢申受（三個迄）

發賣元　東京市京橋區新富町二丁目五番地

合資會社　**伊藤商店**

（電話新橋三九四一番）
（振替口座東京一八五四六番）

取次販賣

愛國婦人發行所

產科婦人科專門 診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衞門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

產科婦人科小兒科
院長 **女醫鷲山彌生**
診察時間 院長 毎日午前八時より 醫員 毎日午後三時より
內科部長 **醫學士武智基道**
診察時間 火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院 電話番町二二五七

佐藤洋々堂製の

ふけ知らず

右ふけしらずと名く『香水』を毎月二三度附れば如何に「ふけ」の多い男女でも年中一粒の「ふけ」を見ず且「ぬけ毛」と「かゆみ」少しも無く倘頭髮の「惡癖」を直して良き「ふくれ毛」となる(無害大有効の)もの◎日夜「かゆく」て、汚き「ふけ」は我身に「つらく」他人に不禮シカも「頭髮」を惡化し「ぬけ毛」を多くする大々有害物なり

●定價(四勺入)卅五錢(一合餘入、大徳用)七十錢、市內配料五錢、市外郵送(箱代共)各十一錢、淸、韓、各廿三錢(郵券代用)一割增
●代金引替の小包郵送は謝絶す
代理部 愛國婦人發行所

文部省各府縣受驗科和洋裁縫造花編物袋物ミシン使用法家政學各教授法各科共無試驗
短期講習 **生徒募集** 九月一日學期開始
要規則書ハ郵券貳錢
私立 **日本技藝女學校**
牛込區水道町三拾二番地

九月號 **新小說**
長編 移轉前後……眞山青果
無題錄……登張竹風
小說 筍……上司小劍
人生と文藝……後藤宙外
釣針の話……幸田露伴
小說 逐はれし人々……中島孤島 / 彼の女……水島尺草 / 戀の山……仲野徽軒
◎同棲錄……宙外
◎褻死美人論……有美
◎最近露國文學……昇曙夢
藝術 世界と實世界……龍峰
◎梧桐雨……笹川臨風
◎古代歌謠……澤村胡夷
◎ギッシング……平田禿木
◎滿韓の建築……古宇田工學士
材料豐富趣味橫溢 本號和田英作中澤弘光鈴木華邨 畫家 郵稅共切手卅錢 六冊一圓五十九錢
東京日本橋通四丁目 **春陽堂** 發行

婦人画報
九月一日發行 九月卷 價廿五錢 稅二錢 六冊稅共一圓五拾錢 十二冊同二圓八十八錢

▼初秋風(彩色美人畫)井川洗厓筆 ▼梨本宮兩殿下御歸朝
▼當世婦人風俗▼貴婦人と令孃▼島津公の朝顏▼小兒の色々……
▼凉秀抄▼流行の髮▼婦人の髮▼婦人の富士登山▼令孃鑑……
▼東伏見宮妃殿下の御散策…… ▼淸國殿下の二妃
▲花嫁花婿▼活人畫▼輕井澤の女學生▼能書の小兒▼育兒院……
▼女流棋客と双六▼新玩具▼轉地會▼瓶華▼操會別莊實習……
▼北白川宮葉山御別邸…… ▼諸名家の別莊
◎日本婦人の美點を失ふ勿れ 高嶋男爵 ◎お氣の毒な衞生家
◎初秋は眞面目に物を思ふ時 園田孝吉 ◎家庭經濟芝居の教訓
◎虎の威を假る狐 大町桂月 ◎女教師いろいろ……
◎新秋を利用せよ 下田歌子 ◎育兒 ◎薪……
◎家庭に淸新の氣を入れよ 下田次郎
◎女に必要な滑稽趣味 巖谷小波 ◎季節料理 龜井まき
◎娘の家政練習 遠山稻子 ◎子供の玩具 ◎履物好み
◎訪問日記廣岡淺子夫人 ◎小說 岡田八千代 ◎栽縫……
◎秋と衣服の色 大原鉦一郎 ◎弱き妻持つ夫の苦心
◎婦人の髮 泉鏡花 ◎商賣し乍ら筆持つ婦人其他……
東京飯田町四町の四 **東京堂** 電話番町二三三九

大黑天印
宮崎葡萄液
◎長井、下山兩博士の指導の下に創製せる本液は滋養に富める葡萄の菓汁なれば他の飲料に比類なき卓越せる特色を有し毫もアルコール分を含まず芳香美味にして衞生に適し日常之を飲用せば消化力を助け筋肉を肥し滋養補血に偉大の効あり(御進物用化粧箱入及商品切手調進仕候)
宮內省御用達
發賣元 東京日本橋通旅籠町 甲斐產商店 振替貯金口座一九三七番
宮崎光太郎 電話浪花八七〇番

甲斐產葡萄酒
◎本邦釀造葡萄酒中尤も古き歷史を有する純粹生葡萄酒にして藥用に適し其品質の佳良なるは普く天下の賞贊を博する處なり釀造經過年限に依り左の三種とす
金線十年 銀線五年 赤線三年

創立明治二十一年通稱鳥海女學校
日本實業女學校生徒募集 東京神田小川町一
◎和洋裁縫◎刺繡◎造花◎編物◎生花茶道各科短期卒業規則二錢送れ

(注意) 近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

麝香獸印 **ムスク香水** 芳香の永く保つ點にて高評也
大瓶壹圓 中瓶六十五錢 小瓶二十五錢
東京日本橋本石町四 **松澤常吉**

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社告（廣告主へ御用の折は、愛國婦人誌上にて見たる旨御申添願はしく存候、）

宮内省御用達

最上醤油之元祖

上

開業貳百六拾五年

醸造元　下總銚子町　濱口合名會社　振替貯金口座五〇貳壹番

最上醤油

品質優等ニシテ調理ニ適ス

發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衛門

醸造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衛

最上醤油　キハク印

於姫路島博覧會　名譽大賞牌受領

キハク印

醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　信號（キハク）又（ハク）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

資本金八百萬圓

東京京橋區木挽町　株式會社　十五銀行　電話新橋　一三〇〇番　一五三〇番　三一九三番

同日本橋區新乘物町　同　日本橋支店　電話浪花　一九〇一番　三二七四番　三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

履物界之革新

銘名　愛國下駄

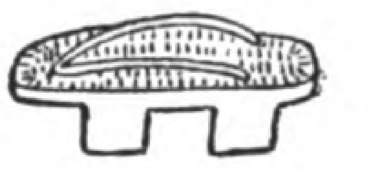
弊店數十年業務に勉强致せしが國家慈善の爲何分の御奉公致し度と存じ今般愛國婦人會に御相談の上愛國下駄と銘名し、少利の内より御買上一足に付金一錢宛御寄附申事に取扱候間微意御諒察之上御用命被下度地方より御註文の時は御年頃格好御指名被下ば見計引替小包にて御送付申候

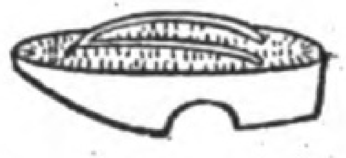
東京市麴町區飯田町三ノ二　九段下飯田橋通り

履物商老舗　高田屋友太郎

レエザ上等表●桐臺　新本天友染鼻緒附

南部表形　鬼藤表形　金五拾錢均一





十月一日より

一第十八回新柄陳列會
一懸賞課題裾模様圖案陳列
一和洋小間物新製品陳列會
一懸賞募集優等寫眞陳列
一時代風俗參考品陳列會
一寄せ裂れ見切り反物大賣出し

東京日本橋駿河町　三越呉服店

地方註文御案内書は御一報次第送呈可仕候

（振替貯金口座東京三〇〇番）

最良の白毛赤毛染として賛詞を得たるは千代ぬれ羽あるのみ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
神田三河町 博報堂
京橋宗十郎町 正路喜社
日本橋蛎殻町 春風舎
京橋南紺屋町 一星社
神田須田町 金蘭社
本郷區湯島 弘進社
京橋區 廣告社

岩佐病院　日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）

診察時間　自午前九時至正十二時

內科婦人科　院主　岩佐純
內科　院長 ドクトル　岩佐新
外科　醫學士　山村正雄
産科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

妾事漸毛にて種々藥を試しも效なく醫博士令夫人所迄三百沓へより寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに宵餘の禮狀を受け不思議のまゝ尙困難……告ぐ三錢郵劵添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

●時機は來れり

●品質本位を以て高評を博しつゝある「花王石鹼」は今や比類なき盛況を呈せり

●品質本位の結果なり

嫁入道具

宮崎タンス　京都美川澤町　電一八二〇番

良藥にして口に甘し

たんせきに　すきはらにめし

あさだあめ　淺田飴

たんせき　ひきかぜ　はいびやう　よわき　くによし

定價　金五錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

東京本店　堀内伊太郎　大坂支店　取次 全國藥房

▲意匠嶄新破格廉價札付

儀式用鼈甲　櫛　笄
象牙蒔繪　櫛　中差
金銀寶石入　簪　指輪
帶止　ピン
珊瑚珠翡翠　玉　替
根　掛
化粧品

格安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價并に三拾錢均一物は御進物用として益好評御便利爲御持古るしの小間物引取交換仕候

東京市神田須田町（電話本局二〇七六番）（振替口座二八一一番）

鼈甲小間物商　三井屋德次郎

京橋區新橋際　博品館內支店
神田裏神保町　東明館內支店

○院長　ドクトル　木村順吉

京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

婦人科産科　木村病院

婦人世界

九月一日發行　四卷第拾號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　半年分八拾錢（？）

九月一日發行 四卷 第拾號一冊拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共一圓 一年一圓五十錢 二錢

◎嫉妬は婦人の惡德か　村井弦齋
▼不良少年を感化せる私の苦心　櫻井圓次郎
◎御前講演の秀才を出す　梨本宮家令坪井祥
◎良人と共に樂しむ私の家庭の遊藝　高橋千代子
▼轉地中の女子大學夏季寮を訪ふ……一記者
△一週間斷食苦行せし實驗　川田作子
△日本人に嫁し姑に感心されし英國婦人　鈴木眞人
△大阪の大火に類燒した實話　桑原直子
△腦病院に婦人精神病者と語る
▼九十歳の長壽を保てる老夫婦を訪ふ……記者
◎海水浴にて溺死しかゝりし實話　尾島菊子
◎女髮結が良人を助けて成功せしむ　長澤常子
▼出産の爲め轉地療養せる西洋婦人を訪ふ……記者
◎巴里の中籠城の婦人の働き　貴族院議員　渡正元

東京　實業之日本社　（郵便振替口座三二六番）

醫家處方調劑

藥品の純良
調劑の正確

醫師ノ處方ニ係ル調劑ハ必ズ調劑部主任之ヲ擔任シ親切丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス藥局トシテノ設備亦大ニ完全シ既ニ久シク大醫諸先生ノ信認ヲ辱ス藥品ハ試驗部ニ於テ嚴格ナル檢査ヲ施シ全ク純良品タルヲ確認シタル上之ヲ使用ス

神田區今川小路三丁目角

尾澤純良堂

藥劑師　大西橘三　藥局
藥劑師　田中義廣
藥劑師長　谷川贇
電話本局一五一八番

にきびを化粧液とる有效

チプリ

到る所販賣にし升

廿グラム二十五錢

東京本石町　松澤常吉

明治四十二年九月五日發行（毎月五日廿日二回）（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）（廣告料一行金六拾錢）發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 永持德一 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京市牛込區榎町 日清印刷株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

教養所日誌

△四月廿日(火曜)　寮生登校例の如し

△廿一日(水)　同上、明日高等科學生は學校の催にて大森へ遠足に付寮長大森迄の略圖を掲げ克己に關し訓戒を爲す

△廿二日(木)　高等科寮生は五時四十分出發學校の遠足會に參列す始ての事故村井事務員同伴す

△廿三日(金)　高等科寮生は學校休業により在寮尋常科寮生登校例の如し、寮長午前中高等科學生を集め軍人に賜ひし勅諭中五條の要目を略解し之が暗誦を演習せしむ、副寮長日比谷小學に赴き校長に面會寮生の成績を聞質、教授法を參觀す

△廿四日(土)　寮生登校例の如し、本日身體檢査を行ふ

△廿五日(日)　朝食前一回非常集合を練習せしむ、建築中の道場略ぼ落成せるを以て本日午前九時より道場開きの式を擧行す、その次第は一、教育勅語捧讀、二、軍人に賜はりし勅諭大意の暗誦、三、開講四、非常に際する集合法の不時實施、五、演武にして來會者及演武者には折詰辨當及寮長寄贈に係る冷酒、玉子燒、豚汁を供す、當日の折詰辨當は武道質素の掟に照らし特に寮生の晝食と同一樣となし麥飯を用ひしめたり

△廿六日(月)　寮生登校例の如し

△廿七日(火)　同上

△廿八日(水)　同上、本日來年度收容寮生の募集に關し會長の名にて全國各支部長に通知し同時に身體檢査に關し各師團長へ依賴狀を發す

△廿九日(木)　寮生登校例の如し、此日寮生の信書發送を月一回と定め其都度端書を支給することゝし又各郷里よりの小包は一切之を止むることゝなし此旨寮生を懇諭せり

△卅日(金)　寮生登校例の如し、來月以後寮中日課は本月分に準ずることゝし左の三項のみ改止す

午後五時晩食を　午後六時半夕食に
午後八時就床を　午後八時半就床に
就床後十分消燈

△五月一日(土)　寮生登校例の如し、午後二時寮生一同に自習室、寢室、診察室及道場の大掃除を行はしむ

△二日(日)　朝食後副寮長寢室の清潔檢査を行ひ引續き寮生をして事務室、應接室、二階廊下、下廊下及空室の大掃除を行はしむ、午前九時より道場に於て擊劍稽古始めを行ふ

△三日(月)　寮生登校例の如し、寮長以後自習室に於ける自習時間を定め且つ懇諭激勵せり自治時間左の如し

午前七時より三十分間　午後五時より四十分間
同六時より三十分間　同八時より三十分間

商務學士蠣崎力民には來て擊劍助教を囑託するの約調ひ居りしが本日より從事せらる

愛國婦人會各支部職員小肖

栃木支部宇都宮市幹事　田中せき子
岡山縣和氣郡幹事部幹事　岡崎元子
栃木支部足利郡幹事部幹事　渡邊榮舞子
群馬支部北甘樂郡幹事部幹事　淺川くま子
愛媛支部東宇和郡幹事部幹事　村瀨うめ子
高知縣幡多郡幹事部幹事　川島紫[illegible]
佐世保市幹事部　田代そめ子

▽愛媛支部△

宇摩郡幹事部

第一回總會狀況

愛國婦人會愛媛支部宇摩郡幹事部第一回總會を明治四十二年三月廿七日同郡三島町郡立農林學校講堂に於て開く來會者會員六百四十餘名戰傷病死者の遺族及廢兵共貳百參十餘名の外支部より安藤支部長黒田警視の夫人三宅主事出席來賓は三島稅務署長同郵便局長農林學校長其他郡內有志五十餘名にして場內（七間に十間講堂）は立錐の地なきに至れり今其概況を擧ぐれば正面の壇上に淨凡を置き　總裁殿下の御寫眞を奉置し後方には幔張を繞らし前面には花瓶に松と竹とを挿し其他總ての裝飾を施し定刻に至れば第一振鈴を以て來賓並に戰死者の遺族及廢兵只式場に參列幹事部長の先導にて安藤支部長入場あり幹事部長坂井エッ子開會式擧行の旨を報し右　御寫眞の覆を撤して一同最敬禮（此間君か代の奏樂あり）亞て幹事部長會旨を捧讀し支部長の告辭幹事部長の答辭會員總代阿部かつの祝辭朗讀及坂井幹事部顧問は幹事部內會員の現況其他二三の希望を演述し尙ほ本部よりの祝電朗讀了て支部長は幹事部內の功勞者に對し有功章謝狀及物品を授與せられたり其有功章の授與に預りたるは幹事部長坂井エッ子幹事部顧問坂井牧之助（三等有功章）其他物品謝狀等の授與に預りしものは八十五名三宅主事は本會の趣旨目的沿革現況の事務等に就き報告あり全く式を終りしは午后三時夫れより実子座に於ける宴會場へ移り折詰其他紀念品（特製砥部燒皿一個）の配布をなし餘興として落語及小供の手踊等の催ありて一同滿足の狀を現はし散會したるは午後五時過なりき當日は稀なる好天氣にして附近村落より總會の催しを見物せんとて參集せしもの多數にして此盛況を一般に紹介せし功不少ものゝ如し尙翌日午前九時式場前に支部長始め總會に關係せしものゝ參集し紀念の撮影をなしたり前叙總會の擧行を機とし勸誘の結果新入會員百五十四名を得現在會員壹千四百九十參名に達したり

右報告に及ひ候也

明治四十二年四月二十日　幹事部長㊞

支部長宛

宇摩郡幹事部第一回總會式次

一職員會員一同式場に參列　（第一振鈴）
二來賓並に遺族及廢兵式場に參列　（第二振鈴）
三幹事部長の先導にて支部長臨場
四幹事部長擧行の旨を告く
五幹事　總裁殿下御寫眞の覆を撤し奉る　（一同起立最敬禮）
　奏樂　君か代
六幹事部長會旨捧讀
　一同最敬禮（終て復座）
七幹事部長職員及會員名簿を支部長に呈す
八支部長告辭
九幹事部顧問演說
十幹事部長答辭
十一會員總代祝詞
十二功勞者に對する有功章謝狀物品の授與
十三支部職員事業報告
十四總裁殿下御寫眞の覆を復し奉る　（一同起立最敬禮）
　奏樂　（終て復座）
十五幹事部長式の終るを告く
十六參列者一同退場　奏樂
右終て開宴の上隨意退散

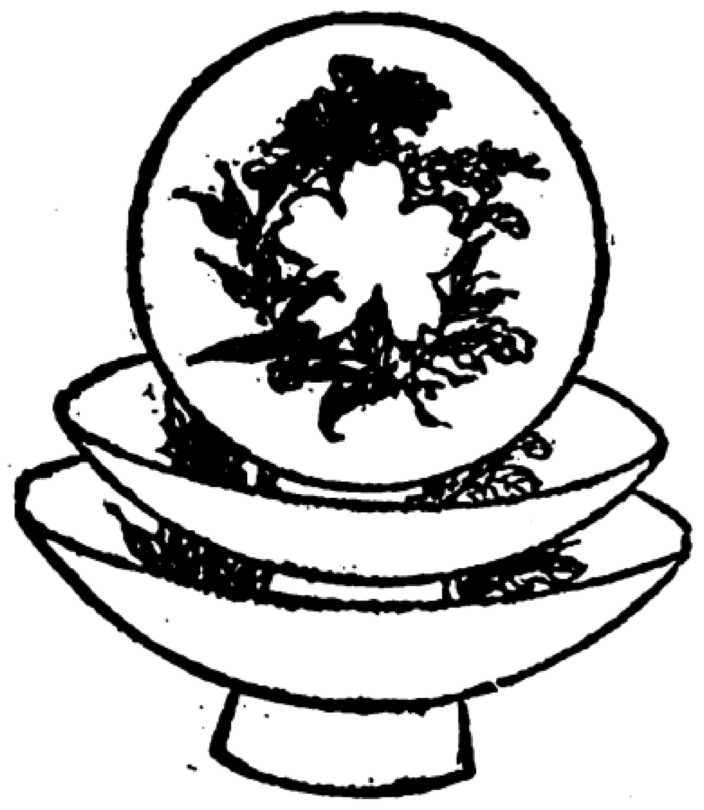
△宮崎支部▽

愛國婦人會宮崎支部兒湯郡幹事部第一回總會を同郡東部及西部の二ケ所に分ち開催し東部總會は四月九日兒湯郡高鍋町舞鶴公園に於て西部總會は同月十一日同郡下穗北高等小學校に於て日本赤十字社同郡委員部總會に引續き兩日とも午前十時開會正午閉會せり當支部よりは支部長代理として評議員亥角みち子及主事成合德次出張臨場せり

一會場入口には壯大なる綠門を拵へ中央に板葺の屋根を設け正面に總裁殿下御眞影を安置せり　（以下次號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金銀盃類



貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷(特一九六五番／二二四四番)

色白く艶をだす

松澤ホーサン石鹼

(大形 廿錢　小形 十錢　新小角形 十錢)

●近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市内賣藥小間物化粧品店にあり

東京本石町四　松澤常吉

AIKOKU FUJIN

(THE PATRIOTIC LADIES).

A Fortnightly Home Journal.

Circulates in all parts of Japan; Official Organ of the Japan Ladies Patriotic Society.

Head Office: Iida Machi, Kojimachi-ku, Tokyo.

All communications respecting European and American Advertisement should be addressed to

THE FAR EASTERN ADVERTISING AGENCY
(Tokyo Kokoku Toritsugi Kaisha),
38, Naka Machi, Kobe, Japan.
(or London Office: 57, Craven House, Kingsway, W.C.)

▲對人的感應力、催眠術、剛毅、元氣等屬知すべからざる神秘力は吾人人類の運勢を左右するものなり。

實に實業界及び社交界に於て成功すると否とは、凡て斯の種の神秘力の如何に依つて存す、世に偉人賢婦と崇敬さるべき先輩は吾人々類の威權翕引の中心にして彼等は如何にして人心を收攬し且つこれを保持し得べき哉を知悉するに由れり。

此の擴大無邊なる神秘力は決して偶然に獲收し得べきものに非ず要は修めて得べき技藝及び科學に基くものとす。本會の創設に係る嶄新なる教示法に由る時は何人も自宅に在て數日間に能く學ぶことを得べし而してこは獨り自己の成功を得るのみならず他人の心情健康及行爲に對しても著しく驚くべき程度にまで感化し得らるゝことを保證するものなり又各自に高尚にして且つ愉快に業務を執行し得べき職業を得、倘ほ一層奇異の功を奏せしめ、即ち十弗の收入を二十弗に增さしむるが如きは容易なり。本書は多大の資財を擲ち印行に費を盡して精巧なる圖解を附し精密に論述せり著者は著述家として有名なる文學士、哲學博士、法學博士ラ、モット、ゼーシ教授の筆に成り世界に雷名を轟したる諸大家によりて助筆せられたるものを平易なる日本語に飜譯せられしものなり、此の破天荒の書物は數千人の人を成功せしめ、幸福及健康を授くる用に供せんが爲にして、一萬冊の製本を絕體的無代價にて進呈するものなれば、好機逸すべからず一枚の萬國聯合端書(四錢)若は端書に貳錢五厘の切手を貼用し北米合衆國ニユーヨーク州ロチエスター市紐育科學協會宛申込次第郵送す

以上の事實の妄ならざるを證し其確實を證する爲め左記の書狀を示さん

紐育州ゴールマン市ポール、ウエラー牧師曰く

貴下の教訓は予が獲得し得らるゝとは夢想だにもせざりし品性の陶冶力を予に與へたるものなり云々

「テキサス」州メルラス市クラツチフイールド街百一番地醫學博士ウー、エス、リンコルン君の書簡に曰く

本書は予に執りて一種の啓示なり其の說述の方法は予が曾て見聞したる何者よりも遙かに進歩したるもの也

「ペンシルベニア」州コウリー市ケ、メレンウアー孃曰く

貴下の教訓は妾をして新しき婦人と轉化せしめ一種の可能的知覺を會得し妾に曾て存在もせず夢想だにもせざりし事の啓示を得たり、何人と雖も本書の教示に接し其の教示を悟れば世上一般に滲り不幸不運の者や虛弱者を救治するの救や偉大なりと信ず云々

宛名　NEW YORK INSTITUTE OF SCIENCE.
DEPT. 512. A
ROCHESTER, N. Y.
U. S. A.

通信は日本文宛名は英語で右の通認めらるべし。英語の記けぬ人は切抜き端書の表に貼るべし

THE ZEMU

ゼム

衛生家必携　懐中良藥

愛國

理想の婦人

深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏なる婦人

家庭にあり又交際場裡にありて常に淸涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし

◎主効

○頭痛○眩暈○氣鬱○舟車醉○時候傷○水傷○食傷○消化不良○口熱○口中惡臭○其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種惡疫を豫防す。

定價 七十五粒入十錢 百六十粒入廿錢 四百廿粒五十錢 九百粒入壹圓 容器入廿錢

東京 馬喰町二丁目 愛國堂 山崎榮三郎
大阪 高麗橋二丁目 山崎兄弟商會

御扇子

愛國婦人會御用達

京都寺町五條下ル東側　御影堂　持阿彌

腦神經精神病科

病室淸新　診療確實

東京龜戸町　電話浪花二五五二

加命堂腦病院

小兒病一般

京橋區南鍋町風月支店斜向　電新四八八壹

宅診午後　醫學士　福田謙之

●婦人病專門

芝明舟町十九虎門外宮樣前　電話新橋三三二四

院長　櫻井克己

櫻井醫院

院長 醫學博士 榊順次郎
副 醫學士 久保德太郎
副 醫學士 田代謹二

婦人科產科 每日午前診察　婦人科的外科 外國留學中　婦人生殖器病 泌尿器及內科 一般火木土午後診察

●施診火木土午後一時至二時

婦人科產科　榊病院

麹町三番町三三(電話番町三二九五)

院長診察月水金木前　松田醫學士診察火土前　駒者施診火木前　入院診斷隨時應需　松田林兩副院長は目下當院に在勤

電本 八八八(病院用) 八九八(私宅用)

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二(御茶水橋畔)

院長 醫學士 高田畊安

南湖院

神奈川縣高座郡茅ケ崎村濱(停車場所在)

めりんす
ゆふぜん
ふともの
るゐ

人形町通の
赤のれん
おばなや本店
電濱四三四五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN